

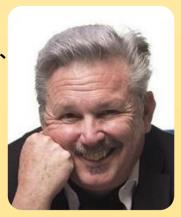
第4世代原子炉システムのコスト計算

概要/目的:

GIF経済性ワーキンググループが開発した第4世代原子炉システムの原子力エネルギーシステム用コスト計算ガイドラインについて説明します。他の原子力発電プラントのコスト計算モデルとの比較、GIF EMWGとIAEA INPROのベンチマーク活動についても紹介します。

講演者紹介:

Geoffrey Rothwell博士 は2013年から経済協力開発機構 (OECD、仏国パリ)原子力機関(NEA)の主席エコノミストであり、経済性モデルワーキンググループ(EMWG)の事務局を務めている。2003年には、第四世代ロードマップ委員会の経済性横断的グループの議長として、EMWGの委託事項(TOR)を作成した。また、第四世代原子カシステムのコスト評価ガイドライン(GIF、2017)の執筆に積極的に関与した。



1986-2013年にスタンフォード大学で教鞭を執る傍ら、「原子力の経済性」として発行された2004年のシカゴ大学報告「原子力の経済的将来」の改訂(英ラウトレッジ社、2016)のため、アイダホ、オークリッジ、パシフィック・ノースウェスト、及びアルゴンヌ国立研究所と協議した。

ワシントン州リッチモント出身。バークレーカルフォルニア大学にて博士号取得。

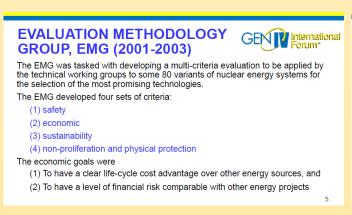


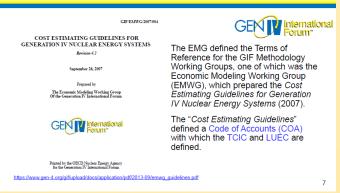
GIF-EMWGの始動時期の振返り:

経済性モデルワーキンググループ (EMWG)は、GIFが支援する技術 (GIFシステム)を選択する第四世代炉ロードマップ委員会を構成する

横断的評価手法グループ(EMG)により、GIFシステム選択のための経済的クライテリアを明確にするため設立された。2つのクライテリア:

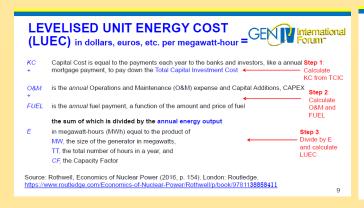
EC-1 低総資本投資コスト、及び EC-2 低平均コスト(平準化単位エネルギーコスト:LUEC)が選択され、2017年、EMWGにより「コスト評価ガイドライン」及びわかりやすい評価ツール(G4-ECONS)が開発された。

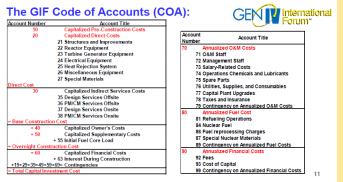




勘定科目コード及びLUEC:

GIF勘定科目コード(COA)がLUEC評価のために開発された。COAは 総資本投資コスト(TCIC)を積み上げるためのボトムアップ手法である。 LUECは平均化TCIC、運転・修繕(O&M)、及び燃料コストにて構成される。



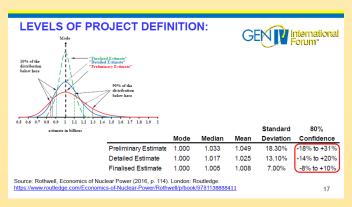


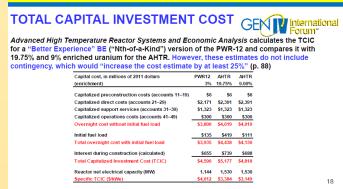


TCIC:

TCIC は直接費、基準建設費、間接費、所有者コスト、財務コスト、及び建設中利子(IDC)、不確実性コス(Contingency)にて構成される。財務コスト、利子及びContingencyを除くTCICはオーバーナイトコストと称される。いくつかの場合、初装荷燃料は燃料コストとして扱われるが、このコストは初期コストとして大きいため、このケースでは資本コストとして考えらる。例えば、オークリッジ国立研究所(ORNL)によって

推定された溶融塩炉(MSR)のオーバーナイトコストは3350ドル/kWe(2011年米ドル)であった。IDCは建設期間に依存する。適切なContingencyの推定が必要となる。Contingency率はプロジェクトの段階によって減少し得る。例えば、2011年ORNLにより推定された9%濃縮ウランを用いた革新的高温炉(ATHR)システムのTCICは、PWR12の4012ドル/kWeと比して3149ドル/kWeであった。

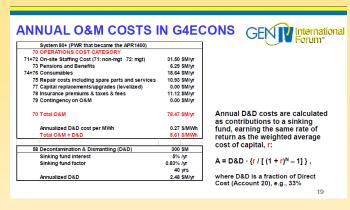


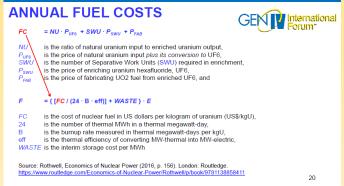


O&M and 燃料コスト:

人件費及び修繕費のようなコストはO&Mコストとして推定される。 除染&廃炉(D&D)コストは減債基金への寄与として推定される。

燃料コストはフロントエンド及びバックエンドコストを含んでいる。9%濃縮ウランを用いたAHTRシステムの燃料コストは、PWR12の5.60ドル/MWhと比して、10.74ドル/MWhと推定された。





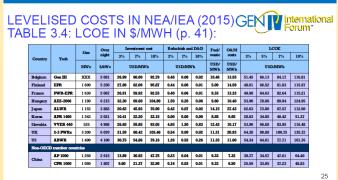


ORNL及びNEAのコスト評価:

ORNLは System80+のLUECを30.56ドル/MWh、9%濃縮ウランを用いたAHTRシステムを 48.18ドル/MWhと評価している。

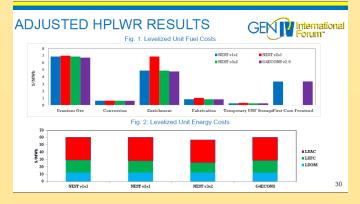
NEA は定期的に各国の平準化コストの推定を報告しており、韓国のAR1400、及び中国のAP1000/CRP1000については、比較的安いオーバーナイトコストが見積もられている。





G4-ECONS とIAEA開発のNESTのベンチマーク:

NESTはIAEAにより4つの段階で開発され、第4版において増減なし(breakeven)クローズド燃料サイクルと複数の転換比を扱えるように拡張された。 熱炉(KITによる高性能LWR)と高速炉(ロスアトムのBN-800)を用いたG4-ECONSとNESTのベンチマーク評価が実施され、 少しの違いはあるが大きくはないことが確認された。



BENCHMARKING CONCLUSIONS: GEN International

There were three key differences in the fuel cycle assumptions between NEST and G4ECONS: how the initial core is financed, how UNF is disposed of, and the cost of recycled material (Pu) for the initial core. The G4ECONS LUEC results were adjusted to better align with NEST assumptions.

- For the HPLWR, the difference between NEST and G4-ECONS LUEC results were negligible (<0.5%), except for NEST v3s2 which underestimates the cost of the initial core resulting in a difference of 6%.
- For the Break-Even Fast Reactor, the differences between NEST and G4-ECONS LUEC results were within 1% and less than the differences between the NEST systems.
- For the Burner Fast Reactor, the NEST and G4-ECONS LUEC results were found to be within 0.5%.

Future versions of G4ECONS will consider revising their fuel cycle assumptions to improve harmonization across the tools.

31